



「明治五年 十一歳。六月二十六日石見國鹿足郡町田村の居を出で、父と東京に向ふ。八月向島小梅村に僦居す。十月頃西周の家に居寓す(中略)明治八年四月三十日小梅村の家を買ふ」(森鷗外『日記材料』より)

*年齢は数え年による

本郷台地の東の端に位置する千駄木団子坂の上に、文京区立森鷗外記念館があります。そこには、かつて、森鷗外が亡くなるまでの半生を過ごした家がありました。今日、その表門があった場所に立ち、東方を眺めると、ビルとビル

との間のわずかな隙間に、スカイツリーの姿が見えます。この塔が完成したのは、鷗外生誕150年の年でした。不思議な因縁だと言えます。塔が建っているのは、江戸が東京と名を変えたばかりの頃に、石見国(現在の島根県)の山間の小さな城下町から、鷗外が父に連れられて上京し、最初にたどり着いた地であるからです。

翌年、祖母、母、弟妹と、すべての家族も上京して来て、およそ5年間、鷗外の家族はこの地に暮らします。今日、都立本所高等学校があるあたりです。鷗外その人は、その頃のことをほとんど書き残してはおりませんが、

8歳下の妹の喜美子が、この地での生活を懐かしく思い出しています。

「……藤子が向嶋に住んで居たのは、四つから九つ迄の五年間で

あった。初めて通った学校は牛島小学校といって、竹屋の渡しを上がった土手の下あたりかと覚えて居る。家は小梅村なので、田圃を通って牛の御前の通りを行って、曲つてからの土手下がかなりあった。

それを行くのを遠いともつらいとも思わなかった……」(小金井喜美子「向嶋の家」より)

藤子(喜美子)にとって幼い頃のこの地での暮らしがよほど懐かしいものであったようで、家族の暮らしの様子を四季折々の風物を織り交ぜながら詳細に回想しています。

当時、近所には、依田学海、成島柳北という江戸末期から明治初期にかけての代表的教養人が住んでいました。

明治維新を経て、東京を首都とした近代国家の建設が始まりました。けれども、その時代・社会の変化にどうしても馴染めない人々だつてたくさんいたのです。

幕臣であつた成島柳北などは、そうした人々のシンボリック的存在と言えます。彼は明治新政府の招聘を拒否し、墨田の地に暮らし、随筆集『柳橋新誌』を著して、その頃

の社会・時代状況を辛辣に風刺します。そして、47歳の時に、この地で亡くなります。

成島柳北のそうした生き方は、「墨田」の地がこの東京の中でどのような意味を持っていた(いる)かを考えさせてくれます。

さて、この地を離れた鷗外の家族が団子坂の上に家をもつた年(明治25年)に、芥川龍之介が生まれます。彼は本所で幼・少年期を過ごします。後に、「大道寺信輔の半生」という作品の中で、本所の地を深い懐かしさを込めて回想しています。あるいはまた、芥川の先輩にあたる堀辰雄は、向島で暮らした幼・少年期の日々を、「幼年時代」という作品の中で、やはり懐かしく回想しています。

ここに挙げた文学者たちの著書のいずれにも、今日から百年ほど前の墨田の風物、人々の暮らしが語られています。ぜひ、手にして、彼らの墨田の地への思いに触れつつ、今日の墨田の地をあらためて考えていただきたいと思います。

(森鷗外記念会常任理事

倉本 幸弘)

※平成30年度すみだ地域学セミナー講演(8月18日)より



すみだで輝く子どもたち

■子どもたちの視点ですみだの魅力を発信！

昨年度から始まったすみだ子どもPR大使の活動。小学校3年生から6年生までの子どもたちをすみだ子どもPR大使として任命し、各種イベントですみだの魅力を発信しています。昨年度は、9名のすみだ子どもPR大使が誕生。区制施行70周年記念式典への協力や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のマスコットキャラクター投票の促進などを行いました。

■すみだ子どもPR大使は動画制作をマスター

子どもたちは、すみだ子どもPR大使として活動する前に、スマートフォンでの動画撮影や編集方法などを学ぶワークショップを受講。動画ですみだの魅力を発信



するテクニックを身につけます。

■今年度は17名のすみだ子どもPR大使が活動

昨年度のすみだ子どもPR大使6名(3名は卒業)に加え、今年度は新たに11名の子どもたちが仲間入りしました。

今年度最初に参加したイベントは、9月2日(日)に行われたジュニア芸員によるすみだ北斎美術館ガイドツアー。ジュニア芸員の中学生から、北斎やすみだ北斎美術館について学んだ後、館内の作品やタッチパネル、外観などを動画におさめました。子どもたちの視点から見たすみだ北斎美術館の魅力は、区公式YouTubeで視聴できます。ぜひご覧ください！

そのほか、すみだまつり・こどもまつりのPRやすみだの魅力PR動画コンテスト表彰式への協力などを行います。地域の魅力を発信するすみだの子どもたちの応援をよろしくお願ひします！



■中学生が区報を作る！区報ジュニアレポーター

区報ジュニアレポーター事業は、区内の中学生に区報の特集を作ってもらおうというもので、平成28年度に始め、今年度で3回目になります。特集を作るためには、自分たちでテーマを決め、取材をし、原稿をまとめるという一連の作業が必要ですが、これらをやり遂げるには地域に対する好奇心や関心が不可欠です。区報制作を通してすみだの魅力を肌で感じ、地域や区政に目を向けてほしいというのが本事業のねらいです。

決して簡単な仕事ではありませんが、ジュニアレポーターたちは見事な特集を作り上げてくれました。テーマは何にするか、そのテーマを掘り下げ分かりやすく紹介するためにどこに取材に行けばいいか、取材した内容をどのようにまとめるか、レイアウトすれば読み手に伝わるか、皆で意見を出し合い決めていきます。職員が行うのは、ジュニアレポーターたちが決めたことを形にするために必要な最小限の補助のみで、紙面には彼らの想いが最大限表現されています。彼らは、柔軟な発想と斬新な着眼点、自由なレイアウト、職員と



は違った視座でのまとめ方など、自分たちの想いを伝えたいという熱い気持ちを素直に表現してくれます。その結果出来上がった紙面も、とてもユニークで魅力的なものです。ジュニアレポーターの成果は毎年10月11日号の区報に掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

(広報広聴担当)

